榛名神社社報

発行日 平成五年七月十五日
発行所 沼田市榛名町二八五一
電話〇二七二 四二六五五
発行人 金子浩隆

榛名神社由緒

私等の氏神である「榛名さま」には三柱一座と云って四人の神様が祭られて居ります。

埴山姫命（はにやまひめのみこと）
日本武尊命（やまとたけるのみこと）
菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと） 三柱
諏訪の大神（すわのおおかみ） 一座

日本武尊は上野国神名帳利根郡の部に従一位宝高明神として滝澤明神の栗林に鎮座せられ、菅原道真命は従二位雷根明神として根岸（現在の社地）に祀られて埴山姫命は享禄三年（一五三〇）に沼田万鬼斉顕泰が幕岩城から倉内城に移る時、そこに祀られていた宝明神から城の西下の碓氏根明神へと遷し、顕泰の妻の産土神である榛名大権現（埴山姫命）を勧請して三神を一社に祀り神社の名前を「榛名神社」と称した。

諏訪神社は明治四十一年に合祀した。そこで三柱一座と称されて土岐氏と代々城主の尊崇を受け、特に本殿は元和元年真田信幸公の奉建であり、木造大鳥居は老中本多伯耆守正永公の奉献であり、明治六年郷社に列し、昭和三年県社に昇格したのであります。昭和二十一年に社格廃止以来は宗教法人となりこの利根沼田の総鎮守と称せられています。

社頭講話

お宮こそ生活のよりどころ

名誉宮司　金子安平

心ひきしまる

緑輝く杉木立に静まる御社殿に額けば自ら神々しさに頭がさがります。「白い参道と清らかな手水鉢と、境内にはいれば心持ちが落ちつきます。

拝殿に昇れば祖先達が親しんで来た格式ある御神殿に永い歴史の跡が感ぜられて一段と心身の緊張が高まります。

初代の城主真田伊豆守信幸公奉建の御本殿には六文銭が鮮やかに刻まれ、桂殿の文様には桃山時代の名残が見えて神々しさの尊さが身に感じられます。

身体やすらぐ

ガラス張の明るい社務所・長廊下の前に立てば軽やかな気分になって自然と身体がゆるまる印象があります。

「参拝者繁る庫の林、風覆い長廊下、科学的で不安ゼロ、明るい社務所にとって最適の オアシス。二十一世紀は地球浄化の時。だからこそ榛名の宮の森がその出発点となりましょう。

祭りのかがみ

心ひきしまる、身体やすらぐ榛名の宮居では氏子崇敬者つまり利根沼田の人達のために色々の祭が執り行われます。何れも多くの人々の幸福のためのかがみがお祭が奉仕されて居ります。

安産祈願・合格祈願・成人式・結婚式・還暦の式等の人生儀礼の外に現代人特の地鎮祭・厄初式等の人生儀礼まで更には交通安全・事業開運祈願等の産業儀礼の多くがあります。

結婚式の正しい姿

結婚式は儀礼式と儀礼礼の外神や仏の前に結ばれる式典であります。儀礼は分れる事は云うまでもありません。

儀礼式は人生の力だけ必要であります。何れも切ですから順序・前例の如しで厳しくあります。儀式は元であります。

しかし何時も何処でも誰でもお手本であります。

しかし現代風では儀式は元のないやうな結婚式が時にはあります。二人だけのお式だと云うのが現代風と云われています。

（第二面へ）

平成五年 祭事歴

一月一日	歳旦祭	新しい年の新しい月の新しい日を祝し、朝日の幽栄登に一年の健康と幸福を祈願する。
毎月一日	月次祭	毎月一日、大利根の里の繁栄と氏子の健康とを祈願する。
二月十一日	建国祭	
三月一日	月次祭	
四月一日	月次祭	
四月八日	例大祭	側主神埴山姫命（榛名大権）の勅請、鎮座日、この日が大祭として、一年で一番大切な祭となっている。元県社となり、この日を中心として、神社庁より駆使を迎え、多勢の参列の中、玉串奉献、氏子の繁栄と世界平和が祈願される。太々神楽の奉納も行なわれる。
五月一日	月次祭	
六月一日	月次祭	
六月九日	御大鳥居起念大鳥居竣功奉告祭	皇太子殿下御成婚奉告祭
六月三〇日	大祓	夏越祓
七月一日	月次祭	
八月一日	月次祭	
八月二・三・四・五日	恒例大祭	

われていますがそれは間違いです。結婚式は二人の事と天地の神々に誓を告げる神前の祝先式と大切な人生儀礼です。お友達等に披露宴するのはそその次ぎなければならない大切な儀式ですから、榛名神社での進め方を御参考までに申し上げます。

最初は「白い紙族一見の儀」です。金屏風を前に新郎新婦が坐り、両家が向き合って坐ります。典儀の指導によって進行します。

続いて参進の儀式です。これは巫女の導きによって列を正し、手水合に到って手水します。そして雅楽の調べと共に拝殿に参入する。

次は主題である「三三九度お酒の儀」となる。神職・名・巫女二名・介添・名の計五名による盃の儀となる。尚この儀事がすめば新郎は生家の苗字から婚家の姓名を名乗る訳です。

次は「親族固めの盃の儀」となる。全員盃を持ち、樹内の発声によってお二人の永栄・両家の万才が「乾盃」の声によって祈られて儀式が滞り後終了する。

最后に斎主から祝福と感謝の挨拶が述べられて全員の退下となります。この間凡そ五十分と見られます。

一月一日	歳旦祭	
一月一日	月次祭	
一月一五日	大国大祭	交通の神、大国主の命の生誕日。この日は榛名の新年の初詣の日となっている。元県社として奉られている商業、